

授業科目名	持続可能な社会	担当教員	稲垣 治
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1年 第3クォーター		
講義内容	<p>「持続可能な発展」・「持続可能性」・「持続可能な社会」という言葉は、一般的に定着し何気なく使われているが、意味する内容は非常に奥深く、歴史ある大きな概念である。1970年代前半に世界の政治と経済が大きく転換するが、これと軌を一にして歴史上に現れる。以後、意味する内容や具体的な方策等が深められ、国際政治経済および地域社会を考える上での重要なキーワード、キーコンセプトとして今日に至っている。</p> <p>講義は、「持続可能な発展（開発）」という理念、その歴史的展開、国際社会・国内社会・地域社会における理念の実現方法などについて、2015年に国連総会が採択した「持続可能な発展目標（SDGs）」を題材に講じる。またこうした理念を実際の社会の中にどのように反映させ共生社会を構築していくのかという実践的な知についても、学生自らが問題意識を持ってリサーチを行い、経験的に学習する。</p>		
到達目標	<p>学生が、「持続可能な発展」の理念を踏まえて、現代社会を俯瞰的に把握できるようにするとともに、地域課題を改善・解決することに大きな関心をもつようにするため、次の点を到達目標にする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.（基礎知識の獲得と応用）日本と世界が直面している種々の課題を整理、理解し、それらを地域の実情に即して把握、考察、討議できるようにする。 2.（実践知としての学習）自ら問題意識を持ってリサーチを行い、座学と現実社会との橋渡しが出来る人材になる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：本授業の目的とアプローチの説明 2. 社会・法・規範 3. 国際社会の構造と展開 4. 国際社会の規範（1）：国際法 5. 国際社会の規範（2）：ソフト・ロー 6. 国際社会のアクター 7. 国際連合とは何か：歴史・構造・機能 8. 「持続可能な発展」の概念とその展開 9. 「持続可能な発展目標（SDGs）」ができるまで 10. 「持続可能な発展目標（SDGs）」の内容とフォローアップ 11. 学生プレゼンテーション（1） 12. 学生プレゼンテーション（2） <p>※履修者数によって計画が変更になる場合がある。</p>		

事前・事後 学習	<p>(毎回の授業前に行うべき予習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布される資料を読み、できるかぎり疑問点を明らかにしてくる。 <p>(毎回の授業終了後に行うべき復習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業で学んだことを自分なりに再構成する。さらに独自のリサーチを行い、理解や問題意識を深める。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート(期末を予定)とプレゼンテーション(グループで実施予定)では、各自問題意識を持ち、信頼できる情報源に依拠してリサーチを行い、自らの意見・主張を裏付ける。
テキスト	特定のテキストは使用しない。関連資料はその都度配布する。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・蟹江憲史『SDGs(持続可能な開発目標)』(中公新書、2020年) ・南博、稲場雅紀『SDGs—危機の時代の羅針盤』(岩波新書、2020年) <p>これら以外の参考文献については、授業で紹介する。</p>
成績評価 の基準	<p>毎回講義終了前10分程度のリフレクションペーパー(出席を含む)(30点)、レポート(30点)、プレゼンテーション(30点)、平常点(発言、議論への貢献度)(10点)の合計100点</p> <p>評価基準は次のとおり</p> <p>S 90点以上 到達目標を十分に達成できている非常に優れた成績</p> <p>A 80点以上90点未満 到達目標を十分に達成できている優れた成績</p> <p>B 70点以上80点未満 到達目標を達成できている成績</p> <p>C 60点以上70点未満 到達目標を最低限達成できている成績</p> <p>D 60点未満 不合格</p>
履修上の注意 履修要件	特になし。
実践的教育	該当しない。
備考欄	質問は、授業中、授業前後及び電子メールで随時受け付けます。その他、問い合わせがあれば、随時電子メールで連絡してください。定員超過の場合、第1・2回授業の出席とリフレクションペーパーの内容に基づく選考により履修者を選定します。